

## 研究主題

地域について関心を高め、思考力・判断力・表現力を育む社会科学習  
～第3学年「はたらく人とわたしたちの暮らし」の実践を通して～

五ヶ瀬町立三ヶ所小学校 教諭 馬原 巧平

### I 主題設定の理由

今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。

そのような中、平成29年3月に改訂された学習指導要領の社会科の第3学年及び第4学年の「思考力、判断力、表現力等」に関する目標の中に、「社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。」とある。子どもたちに思考力、判断力、表現力を身に付けさせることを目指したものである。

本学級の子どもたちの社会科の学習に対する意識調査は以下の通りである。（9月実施）

	好き	まあまあ好き	少し嫌い	嫌い
社会科の学習は好きですか。	21%	40%	26%	13%
グラフや写真などの資料を読むことは、好きですか。	26%	26%	30%	18%
資料から分かったことを色々なことと結びつけて考えることは好きですか。	8%	38%	41%	13%

上記の意識調査から、本学級の実態として、資料の読み取りや、読み取った事実を関連して考えることが苦手な児童が多いことが分かる。また、地域と社会的事象の結びつきが身につけていない児童が多い。そこで、地域の社会的事象への関心を高めながら、思考力・判断力・表現力を育むための授業ができないかと考え、本主題を設定し研究を進めていった。

### II 研究の視点

- 1 問題解決的な学習における思考活動と表現活動の工夫
  - (1) 思考ツールを用いた指導過程の工夫
  - (2) 児童が意欲的に取り組むことができる学習内容の見直し
  - (3) 表現活動の工夫

### III 研究の実際

- 1 問題解決的な学習における思考活動と表現活動の工夫
  - (1) 思考ツールを用いた指導過程の工夫

本単元では、児童が考えたことを整理して考えたり、表現したりする際に、KJ法を取り入れた。スーパーマーケットの見学で気付いたことを各自が付箋（赤の付箋には店の工夫、青には店や働く人の苦勞、黄色にはやりがい）に書き込み、それをグループ活動で話し合いながら分類する活動を行った。書く際には、理由や根拠をはっきりさせた上で話し合い活動に取り組むことにより、苦手な児童やうまく説明できない児童でも共有することができた。



<資料1 KJ法を使って話し合う様子>

- (2) 児童が意欲的に取り組むことができる学習内容の見直し  
前任校の高千穂小学校は、高千穂町の中心部に位置しており、児童も日常生活の中で買い物に

行きやすい環境にあり、複数のスーパーマーケットや商店がある。見学を行ったスーパーマーケットだけでなく、児童がいつも利用する店での気付きを交流する授業実践を行った。本単元において、児童が店の工夫・苦勞・やりがいの3つの項目に沿って調べ学習を進めさせた。授業で見学したスーパーマーケットでの工夫・苦勞・やりがいが、身近にある店などでも同様にあることを交流することで、より具体的に、販売に携わっている人々の仕事について考えることができた。

### (3) 表現活動の工夫

単元のまとめの段階では、インタビュー劇を作成し、発表を行った。インタビュー劇を行うことで、店員の工夫・苦勞・やりがいについて、追体験できると考えた。単元導入の段階で、インタビュー劇を行うことを知らせ、単元を通して、自主的・意欲的に活動に取り組めるようにした。

進	主な学習活動	指導上の留意点
つかむ	1 日常生活の買い物調べ 2 スーパーマーケットの集客理由の予想 3 学習問題の設定	○ 学校の周りの店の位置を確認したり、買い物の目的を比較したりしながら地図に整理させていく。 ○ スーパーマーケットがよく利用されている理由について、消費者の願いを観点にして予想させる。
調べる・確かめる	4 学習問題を追究するための学習計画 5 見学の計画 6 スーパーマーケットの見学 7 見学して分かったことの整理・交流 8 自分がよくいく店の見学などで分かったことの整理・交流	○ グループごとに見学の観点に沿って、調べて気付いたことをメモしたり、写真に撮ったりさせる。 ○ 見学で得た事実を関連付けながら、店の工夫などを理由付けながら説明させる。 ○ 家庭へ学習の協力へのお願いを行う。 ○ 前回と同様に見学で得た事実を関連付けながら、理由付けながら説明させる。
まとめる	9 スーパーマーケットの工夫まとめ 10 インタビュー劇の作成・発表	○ 店の特色を踏まえて、店の工夫・苦勞・やりがいの3つの視点でインタビュー劇を作らせる。

[資料2] 実際の単元構成 (□が実践部分)

## IV 研究の成果と課題 (○：成果、●課題)

- 見学を振り返る際に色分けした付箋を用いることで、児童はスーパーマーケットや店の工夫・苦勞・やりがいを意識しながら交流することができた。また、KJ法を用いてグループでの話し合いをしたことで、話し合いが苦手な児童も積極的に意見交流に参加することができた。「くらしを守る(消防、警察)」の単元でも、付箋を用いたKJ法を活用し、地域で働く人の仕事を3つの観点(工夫・苦勞・やりがい)で見通しをもちながら、活動を進めることができた。
- 学習内容を見直したことにより、児童がより主体的・意欲的に問題解決学習を進めていくことができた。また、インタビュー劇を行ったことで、地域と人々の販売の仕事の工夫について、学習したことを関連付け、総合して思考し、自分の言葉で表現することもできた。
- 2回目の見学は、家庭への協力が不可欠であり、児童によっては自主的な見学が難しい場合があった。家庭環境に配慮するとともに、学級懇談でお願いするなど、保護者への周知が不十分であった。
- 2月に行ったアンケートでは、「グラフや写真などの資料を読むことは、好きですか。」の好き・まあまあ好きの項目が、9月(52%)よりも、48%と微減であった。資料の読み取りの手立てが不十分であった。